

(様式6-A) A. 雑誌発表論文による学位申請の場合




飯塚 貴士氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Simple differential entrainment screens ablation strategy for slow-fast atrioventricular nodal reentrant tachycardia
 (通常型房室結節リエントリー性頻拍のカテーテルアブレーション治療における簡易的スクリーニング方法)
 Pacing and Clinical Electrophysiology (in press)
 Takashi Iizuka, Tadashi Nakajima, Shuntaro Tamura, Hiroshi Hasegawa,
 Takashi Kobari, Shiro Nakahara, Masahiko Kurabayashi, Yoshiaki Kaneko

論文の要旨及び判定理由

遅速型房室結節リエントリー性頻拍は通常解剖学的／電気生理学的に後中隔をアブレーションすることによって治療可能であるが稀に難治例が存在する。その原因の1つとして遅伝導路の解剖学的バリエーションが考えられているが、治療前に遅伝導路の存在部位を推測することは困難とされている。これまで推測方法としていくつか報告があるが、いずれもやや複雑な過程であったため、心房の2カ所のみからのエントレインメント (頻拍への乗り込み) を行うことで推測する方法を検討した。高位右房から頻拍回路を介したヒス束までの伝導時間と、冠静脈洞近位部から頻拍回路を介したヒス束までの伝導時間を比較し、前者の方が長い症例を典型反応群 (Typical response群)、逆に後者の方が短い症例を非典型反応群 (Atypical response群) として分類し検討した。結果後者の方が有意に中中隔領域焼灼までの治療が必要であり難治例が多かった。すなわち本研究による方法で通常型房室結節リエントリー性頻拍のアブレーション難治例を推測することが可能と認められ、博士 (医学) の学位に値するものと判定した。(審査年月日 令和2年6月29日)

審査委員

主査	群馬大学教授 (医学系研究科) 臨床検査医学分野担任	村上 正巳	
副査	群馬大学教授 (医学系研究科) 脳神経内科学分野担任	池田 佳生	
副査	群馬大学教授 (医学系研究科) 腎臓・リウマチ内科学分野担任	廣村 桂樹	

参考論文

- Atypical fast-slow atrioventricular nodal reentrant tachycardia incorporating a "superior" slow pathway: a distinct supraventricular tachyarrhythmia. Circulation 133: 114-123, 2016.
 ("上方" に位置する遅伝導路を介する非通常型房室結節リエントリー性頻拍: 新たな上室性頻拍の報告)
 Kaneko Y, Naito S, Okishige K, Morishima I, Tobiume T, Nakajima T, Irie T, Iizuka T, et al.

（様式6， 2頁目）

最終試験の結果の要旨

通常型房室結節リエントリー性頻拍のカテーテルアブレーションについておよびSlow pathway（遅伝導路）の解剖学的な個人差について試問し満足すべき解答を得た。

（令和2年6月29日）

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）
循環器内科学分野担任

倉林 正彦



群馬大学教授（医学系研究科）
臨床検査医学分野担任

村上 正巳



試験科目

主専攻分野	循環器内科学	A
副専攻分野	臨床検査医学	A